災害エスノグラフィー演習　体験談（ショート）

Ｃさんのケース

【基本情報】

年　　齢：60代後半

居住地区：岡山県倉敷市真備地区

家族構成：ご主人と二人暮らし

避難行動：避難せず

建物構造：２階建て

自宅被害：全壊

住所地のハザードマップ上の危険：洪水による浸水５ｍ程度

避難行動要支援者該当の有無：なし

7/5 18:30　岡山地方気象台が【大雨警報】を倉敷市に発表

19:40　岡山地方気象台が【洪水警報】を倉敷市に発表

私は、6日(金)の昼間に地域の会議に出ていました。その晩、長女が、ちょっと雨を心配して、家にご飯を食べに来てくれました。

それで、夜の9時半頃、長女が帰るときに外へ出たら、うちの前の道の用水が、水がもうひたひたで、道が浸かる寸前だったんです。だから、娘が「もう、水で浸かるよ」ということで、主人と娘と3人で、車3台を少し高い所まで移動させました。以前にも、排水機場のポンプが壊れて水が道路に来たことがあったので、その時のように、少し高い所に車を置いて置けば大丈夫だろうと思って3台を移動させました。

車を移動させた後、娘には、早く帰れと言って、帰しまして、私と主人は家にいたんですけど、そのときは、水が、家の中までそんなにたくさん上がってくるなんて、思わなかったんです。

22:00 倉敷市が【避難勧告】発令 真備地区全域に発令（洪水警戒）

それで、家に二人でいたら、夜10時半頃に、停電になったんです。真っ暗の中で、ロウソクを主人と2人で2本つけて、どうすることもできないので、ずっと待機の状態でした。

22:40　岡山地方気象台が【特別警報（大雨）】を倉敷市に発表

停電になってしまったので、携帯の電池がなくなってしまわないかと、不安でした。命綱がこれしかなかったので。だけど、しょっちゅう電話がかかってくるから、「ごめん、電源がもうなくなるから」って皆にお断りして切りました。報道されていたから、真備地区が大変だと、それでみんなが心配して電話してきてくれました。

それからは、主人と2人で話しながら、茶の間にいました。水はどれぐらい来ているかな？と思って、懐中電灯を持って、浸水の様子を見にちょくちょく外へ出ていました。

ずっと停電していましたので、主人の携帯の方は、バッテリーを温存するため電源を切っていて、テレビも映らないので、情報は私のスマホだけで。うちは、ちょうど、市からの避難情報の防災無線も、わりと、聞こえにくい地域なんです。窓を開けてもほとんど聞こえなくて。今回も、雨で聞こえなかったというわけではなくて、普段から聞こえにくいところなんです。

7/7 00:00　倉敷市が【避難勧告発令】川の水位上昇が続き越水した場

合に立ち退き避難が必要な方を対象に発令（洪水警戒）

00:00頃　川右岸（右側）決壊

01:30 倉敷市が【避難指示（緊急）】発令　川北側の真備地区（洪水

警戒）

03:30頃　川左岸（北側）決壊

07:00頃　川左岸（東側）決壊

それで、次の日7日(土)の早朝、明るくなって気付いたら、もう家の庭に水が来ていて。「おい、おい、水が来るぞ。来るぞ」という感じで。その時は、もう、2階に逃げるしかないと。

スマホには、避難情報が入っていたんですけど、気付いた時には既に、外に出れなかったんです。水が腰の高さぐらいまできていましたから。家の中にまでは来ていなくても、外に出るのは危なかった。もう腰ぐらいまで浸かっていたら歩けませんよ。避難所（小学校）と言っても、数キロ離れていますし、水の流れもあって行くことはできません。

7月豪雨の翌年の台風（令和元年東日本台風）の被害があった時にも、テレビで見ましたけど、水がもう来ているのに車で逃げようとしている人がいるから、もうやめてと言いたかったです。

それから、あの水の速さにはびっくりしました。来てからが速い。水位が上がってきてからは速いですよ。あっという間に車も浮くんですね。うちの車３台も少し高い所に移動させたけど、思ったより水が来て3台とも水没してしまいました。

そんな状態ですから、もう外には絶対に出られないです。家は低い土地に建っているんです。もう道へは出られないぐらい水が来てたんです。その時には、もう外には逃げられなくなっていて、家の中で2階に上がるしかなかったんです。それで、お釜の食べ残しのご飯をお釜ごと上げたり、タオルを上げたり、パンの残りとかいろいろ2階に籠城するつもりで、荷物を運びました。

それでも、まさか、1階が全部浸かって2階まで襲ってくるとは思わないから、４～５日ぐらい2階でパンとか食べて過ごす感覚で、2階で過ごせるようにしようと思っていたんです。

でも、水が階段に迫り出したら、もう、それからは速かったですからね。ザーッと。水があんなに速く上がってくるとは思わなかった。それで、助けを呼ぼうと消防署に電話をかけたが繋がらない。私達はスマホしか持ってなかったから、もうすぐ電池もなくなるし。だから、娘に頼んで連絡をしてもらったんです。

濡れたら大変だなと思ったものは、2階に持ってあがりました。廊下にかけてあった絵とか、とりあえず見えるもの。それから、２、３日生活するのに必要なもの。そんなにたいしたものは持ってあがっていないけど、パンとか、おにぎりだったら食べられるかなと思って。でも、結局、2階の胸上ぐらいまで泥水がきたので、2階に持って上がったものも、全てだめになったんですけどね。

上がったり降りたりして荷物を２階へ運んでいたんですけど。最後に、アルバムがあったのを思い出して、アルバムを持って上がりかけたら、半分ぐらい運んだところで、足元の畳がぶわっと、水で浮いたんですよ。池の上に板を浮かべて走っていくような、あんな感覚。アルバムを両手で持っていたけど、ぶわっと落としそうな感じで。

慌てて２階に物を上げた後は、もう、そこから全然動けないから、階段を数えていたんです。水が上がってくるのを、あと何段。あと何段と。主人が、「あと何段だ？」というから、「もういっぱいよ」と言って、ベランダへ逃げました。

ベランダで何を話していたのかは、あまり覚えていないです。とりあえず、もう最期かと思っていました。

水がだんだん迫ってきて不安だったので、近所に地域の繋がりのある人もいたから、そこに電話をして「私達もいるからね。大丈夫よ」と励ましあったり、「そこに救助が来たらうちにも2人いることを言ってね」と言ったり、そういう連絡をしました。

うちの裏にコーポがあったんですが、そこの2階の人は逃げていなかったようで、みんな、ベランダの塀の上へあがって、「もうちょっと辛抱しようよ。」って皆で声をかけ合っていたんです。もうちょっと、もうちょっとと言いながら。

　　　自衛隊の方がボートで助けに来てくれたのは、７日(土)の昼ちょっと前でした。そのときは、自衛隊が見つけて声をかけてきてくださって。それで、主人と二人で、ベランダからそのボートに乗りました。胸まで水に浸かって救助を待っている人は、怖かっただろうなと思います。いくら夏とは言え、水に浸かるというのはね。

自衛隊のボートには、だいたい20人ぐらい乗っていたと思います。結構、大きなボートで。次から次へと、救助してまわったんです。そこから、安全な矢形橋まで連れて行ってもらいました。

ハザードマップは知っていましたよ。避難所の場所も知っていました。でも、あれは南海トラフ地震とか、そういうためのものだろうと、思っていました。「津波とか来ないよ」と思いながらも、一応、自分の家が浸水域にあるなということは知っていました。そもそも岡山県は災害が少ないんです。でも、まさかのまさか。

この災害で、私の近所の方が5人も亡くなっているんです。私と同世代ぐらいだから、余計にね。一度は避難をされたようですが、お位牌を取りに帰られていて、亡くなった方もいたということですから。この教訓は、逃げる。早く逃げる。とにかく早めに避難するということだと思います。

でも、避難所に行こうと思っても、住民全員は行っても入れません。いっぱいですよね。今のままだと、皆が行ったら入れませんよ。

これは主人との話ですが、「うちは何人泊まれますよ。」というようなことを、事前にチェックしておいて。もちろん嫌な人もいますよ。どこが管理するのかという問題もありますが、「うちは５人ぐらいだったらお世話できますよ」と。２、３日のことですよ。

だから、知った人でも良いし、知らない人でも２日や３日、救援がくる迄の間ぐらいだったら、何かあるものを分けて食べて助け合えるようなことができるような地域にしたいなと思っています。

それから、声がけも大事ですよね。今回は、もう水がすでに来てたから、２階に上がれとか、屋根に登れとか、近所の方が声をかけてくれたんですよ。本当は避難準備情報や避難勧告が出たら、周りの人も一緒に声をかけて、近所の人と一緒に逃げたほうが良いでしょうね。

以　上